

第1回富田林観光ビジョン策定委員会 会議録

1. 日時 令和8年7月2日（木）午前10時～12時

2. 場所 すばるホール4階会議室（旧秀月の間）

3. 出席者 【委員】

和泉会長、岩城委員、木下委員、塩見委員、佃委員、橋川委員、藤原委員
（有村委員欠席）

【事務局】産業部：西田部長

商工観光課：山本課長、辻本参事、高橋主幹、柏木係長、磯寄氏

大阪観光局：浅田氏、石丸氏

Vpon JAPAN：森口氏

アルパック：江藤氏、酒井氏

4. 会議形態 公開（傍聴人1名）

5. 次第 1. 開会

2. 報告事項

（1）策定の考え方

（2）現行ビジョンの施策及び事業の評価

（3）統計データ等の整理結果の報告

（4）各種調査計画の報告

3. 検討事項

（1）骨子案の検討

4. その他

5. 閉会

1. 開会

(事務局)

少し早いですが、皆さんお揃いですので、只今より令和8年度第1回富田林市観光ビジョン策定委員会を始めさせていただきます。本日司会を務めさせていただきます、商工観光課の柏木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、皆様ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。まず、開会にあたりまして、富田林市産業部長の西田よりご挨拶を申し上げます。西田部長、よろしくお願いいたします。

(事務局)

改めまして、おはようございます。

(一同)

おはようございます。

(事務局)

本日はお忙しいところ、第1回富田林市観光ビジョン策定委員会にご出席をいただきありがとうございます。皆様方には日頃より市政の各分野にわたり、ご理解とご協力を賜り、とりわけ観光行政につきましては格別のご尽力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

近年、観光を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、国内外の人流と旅行需要が回復し、訪日外国人が過去最高を記録するなど、インバウンドの本格的な再開や万博開催を契機とした広域周遊の促進もある中で、観光への機運が高まる局面を迎えております。加えて近年はAI活用への需要が急速に高まっており、旅行前の情報収集や行程作成から、旅行中の多言語案内、旅行後の需要分析まで、さまざまなデータの活用や分析の重要性が一段と増しております。

こうした変化の中で、本市といたしましても、観光ビジョンの策定や各事業の効果測定など、様々な場面においてビッグデータをはじめとした各種データの収集や分析などを戦略的に進めていく必要があります。本市におきましても、この間、デジタルを活用した誘客・周遊促進の取り組みとして、本市周遊アプリ「とんだばやしとりっぷ」を制作し、観光スポットの検索や周遊コースの閲覧、ポイントラリーの実施などを行える環境を整えてまいりました。併せて、地域の魅力を磨き上げる観点から、観光コンテンツの造成や発掘にも継続して取り組んでおります。これらをターゲット広告などで周知宣伝することで、来訪のきっかけ作りと滞在時間の向上を図ってきたところです。

本市観光ビジョンは、新型コロナウイルス感染症の蔓延により本市の観光も停滞を余儀なくされたことを踏まえ、計画期間を2年間延長することとなり、本年度は計画の最終年度となりますことから、ビジョンの策定に取り組む大変重要な年となります。委員の皆様には、専門的な見地や現場での実感、利用者目線、事業者目線など、多様な視点から率直かつ建設的なご意見を賜り、本市観光のさらなる発展に向けた道筋を共に描いていただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、所属先団体より、今回から新たに二名の委員を委嘱させていただいております。これまでの議論に新たな知見が加わることで、より実効性の高い観光ビジョンの策定につながることを期待しております。本委員会が本市観光の未来を語り合う、意義深い議論の機会となりますよう、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。次に、本委員会より新たに二名の方を委員として招聘しておりますので、ご紹介いたします。まず、富田林商工会事務局長の木下様でございます。

(委員)

富田林商工会の木下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

観光交流施設きらめきファクトリー館長、岩城様でございます。

(委員)

きらめきファクトリーの岩城と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

お二方、どうぞよろしくお願いいたします。また、次期観光ビジョンの策定にあたりまして、本年度の観光ビジョン策定業務を、大阪観光局様、地域計画建築研究所様、Vpon ジャパン様をお願いしておりますため、本市商工観光課の職員に加えて、それぞれのご担当者様にも事務局としてご参加をいただいております。

それでは、本日の会議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、まず次第でございます。それから資料 1、委員名簿。資料 2、現行ビジョンの施策および事業の評価。資料 3、統計データ等の整理の資料。資料 4、市内観光資源調査計画。資料 5、地域担当者ヒアリング調査計画。資料 6、骨子案。資料 7、策定のスケジュール。以上でございます。資料の数が多くなっておりますが、ご確認、皆様よろしいでしょうか。

また、大阪観光局様からのご説明資料も、あわせてお配りしておりますので、そちらもご参照いただければと思います。

次に、会議の公開についてです。過去の委員会の議事につきましては、全て公開とさせていただいております。議事録につきましては、事務局作成後、会長にご確認いただいた上、ウェブサイト上で公開いたします。なお、議事録作成のため、会議を録音させていただいておりますのでご了承をお願いいたします。

また、本委員会の傍聴につきまして、過去の委員会と同様、傍聴は 4 名までとさせていただいております。本日、傍聴希望者が 1 名ございますので、入室をご案内いたします。少々お待ちくださいませ。

本日は株式会社 NANKAI の有村委員は欠席のご連絡をいただいておりますが、委員定数 8 名中 7 名のご出席がございますので、富田林市観光ビジョン策定委員会設置要綱第 6 条第 2 項に基づき、本会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

本日の予定でございますが、次第のとおり、まず報告事項といたしまして、策定の考え方、現行ビジョンの施策および事業の評価、統計データ等の整理経過、各種調査計画についてご報告いたします。次に検討事項といたしまして、大阪観光局様から話題提供をいただいた後、骨子案について委員の皆様からご意見を頂戴したく思っております。

それでは、要綱に基づきまして、これからの議事進行を和泉会長にお願いいたします。和泉会長、よろしくお願いいたします。

(会長)

皆さんおはようございます。

(一同)

おはようございます。

2. 報告事項

(1) 策定の考え方

(会長)

お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。それでは限られた時間でございますので、委員の皆様にご協力をお願いして進めてまいりたいと思います。

先ほど事務局からアウトライン、本日の流れについてご説明がありましたけれども、本日は大きく報告事項と検討事項の二つのブロックに分かれております。検討事項につきましては審議事項ではございませんので、事務局様がこれから自由度を持って骨子案を作られるにあたり、参考となるような建設的かつ有用なご意見を、それぞれのお立場から頂戴したいという趣旨だと思っております。

それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。まず報告事項 1、策定の考え方につきまして、事務局様よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、次期観光ビジョンの策定の考え方につきまして、現在の観光ビジョンの構成に沿ってご説明させていただきます。

まず、現在の観光ビジョンの第 1 幕、富田林市の観光振興についての考え方でございます。ビジョンのコンセプトおよび 5 つの基本理念という部分がございますが、こちらにつきましては現在も本市の考え方に変化はないというところから、次期観光ビジョンにも引き継ぎたいというふうに考えております。

次に、現在のビジョンの第 2 幕、富田林市の観光の今というところは、各種統計調査に関する項目となっております。また、この後にご説明させていただきますが、新規観光ビジョンの策定にあたりまして、必要な調査を行っていく予定でございます。

次に、第 3 幕、重点的に取り組むことにつきまして、現在の観光ビジョンでは 3 つの内容を掲げておりますが、こちらは次の第 4 幕のアクションの中身を踏まえまして、重点的に取り組むことにつきましても、まとめ直す予定でございます。この後の委員会の中でもご確認いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、第 4 幕、具体的な施策・アクションにつきまして、現在の観光ビジョンでは戦略 1 から 5 に分けて具体的なアクションをお示ししております。資料 2 の施策評価シートにおいて、現在の観光ビジョンのアクションを軸として評価をした上で、次期ビジョンでの継続や削除の判断をお示ししております。これを踏まえまして、次期観光ビジョンではどのようなアクションを取り入れるべきか、ご議論いただく予定をしております。

最後に、第 5 幕、みんなで観光地域づくりを推進するための体制づくりというところにつきましては、ビジョン推進の各団体の位置づけ、役割、進捗管理や成果検証となっておりますけれども、こちらにつきましては次回以降の委員会でお示しする予定でございます。

なお、次期観光ビジョンの計画期間につきましては、令和 9 年度から 13 年度までの 5 年間で想定しております。

本日の委員会では、資料2の施策評価シート、資料3の基礎調査の資料をもちまして、資料6の骨子案にございますSWOT分析も活用しつつ、本市の観光に関する現状整理や課題についてまとめたいと考えております。これを基に戦略やアクションの再整理を行った後、重要なアクションを抜粋する、もしくは各アクションをパッケージ化することなどにより、重点的に取り組むことを検討していきたいと考えております。以上でございます。

（2）現行ビジョンの施策及び事業の評価

（会長）

ありがとうございました。ただいまの説明について何かご質問等ございますか。

では、令和9年度から13年度を対象としたビジョンの作成というところでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

では、続けてまいります。報告事項の2番です。現行ビジョンの施策及び事業の評価について、事務局よりご説明をお願いいたします。

（事務局）

はい、事務局よりご説明させていただきます。それでは、資料2をご覧くださいと思います。富田林市の観光ビジョン実施計画の施策事業と記載させていただいておまして、こちらの実施計画に書かれている施策につきまして、その執行状況等を整理しているものになります。

1ページ目、2ページ目でアクション別に評価をさせていただいており、その上、3ページ目でそれらの重点項目や経過報告、見通しについても記載をさせていただいております。

まず1ページ目、アクション別の評価及び継続の判断でございます。今の観光ビジョンや実施計画においては、左から2番目に戦略と書いておりますとおり、全部で5つの戦略で進めてまいりました。魅力ある観光地域づくり、観光情報発信の強化、受入体制の整備促進、広域観光・国際観光の推進、そして多様な主体との連携でございます。これらの戦略にそれぞれいくつかのアクションを整理して入れており、全部で12個のアクションがあるという状況でございます。それぞれのアクションにさらに細かく事業が入り込んでいるというところが、執行状況や進捗状況として記載があるところになります。

進捗状況につきましては、100%を目指した際にどれぐらい達成できているかを市の方で判断いただいた数字を記載しており、あわせて成果や課題の欄に、これまでやってきたことや到達点、そこで見えた課題を記載しております。これらを踏まえまして、次期ビジョンに入れていく際に、今やっている施策・事業について、継続していくのか、削除していくのか、修正して対応していくのかといったことも含めて記載しており、その判断理由が一番右側に書かれているということになります。

本日は内容が複雑ですので、進捗状況が進んでいないところや、継続判断で削除としているものだけ確認させていただきたいと思います。

まず一番上、1の観光資源の磨き上げのところ、2番のウェルネストレイルと3番のまちごとミュージアムでございます。こちらにつきまして、進捗状況が0%から25%で、継続判断は削除とさせていただいております。ウェルネスにつきましては、観光地の磨き上げという位置づけで入っているものの、観光とウェルネスという関係性を考え、市内周遊を進めていくと考えますと、現時点でウェルネストレイルの必要性が想定されにくいところもございますので、今回の検討を経て削除する形にした方がよいのではないかと考えております。

また、3つ目のまちごとミュージアムにつきましても、市内周遊という文脈では理解できる部

分はあるものの、具体的にまちごとミュージアムとは何かという点や、富田林市ミュージアム構想との連携について具体的なビジョンがないため、これを具体的にどう進めるかというところが見えにくいということもあり、削除してはどうかということでお示ししております。

それから、このページの一番下のところでございますけれども、(2) ターゲットに合わせた情報発信の充実の①でございます。情報発信内容の整理・見直しに取り組むというものでございますが、こちらの内容は上の欄にある(1) 戦略的な情報発信の内容と重複いたしますので、こちらを削除してはどうかというところでございます。

では、ページをめくっていただきまして、2 ページ目につきましては、基本的に継続、あるいは修正の上継続と見させていただいております。中には進捗 0%のものもございますが、内容的には非常に重要なものもございますので、進めていってはどうかというふうに考えております。

例えば一番上の 3 (1) 観光への意識の向上の②観光リーダーの育成が 0%になっておりまして、観光リーダーの育成にはなかなかつながっていない状況ではございますが、一番右側の判断理由をご覧くださいと、今後を含めて考えたときに、リーダーの育成ということだけでなく、観光人材や担い手不足という問題がございますので、こうしたことを解消していくということで、文言修正という形で継続していくというようなことを評価に入れております。

最後、3 ページ目をご覧ください。各項目の継続判断ということで、実は現行のビジョンにも記載されております重点的に取り組むこと 3 点、すなわち「歴史文化を生かした観光振興に取り組む」「農林資源を生かした観光振興に取り組む」「外国人観光客の誘致」につきましては、特段これを変える必要性はなく、むしろこれから重要になってまいりますので、一旦継続という形で評価をするということになります。

それから 2 つ目、基本方針についてですが、こちらの方針でございますので基本的には引き続き継続と考えておりますけれども、上から 2 つ目の「市内観光拠点としての観光交流施設きらめきファクトリーの確立を目指します」というものにつきましては、これまではきらめきファクトリーを確立していくことが一つの目標として掲げられておりましたが、状況も進んでおりますので、「確立」ではなく「さらなる充実」や「拡充」など、次のステップに進むことがわかるような文言に修正してはどうかということで評価を入れております。

また、最後に基本理念、「来るたび発見、富田林 住んでも発見、富田林」につきましては、こちらは今後も継続してよいのではという評価を入れているところでございます。資料 2 については以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。本日から新たにご出席されている方は、これまでの議論がお分かりにならない部分もあるかと思っておりますけれども、これまでの議論の中で、現行ビジョンの中で一体何ができて何ができていないのかというところをきちんと振り返ることが、次のビジョンにもつながっていくというご指摘がございました。もっともなご指摘だと思うのですが、そういったご意見もございました。

そういった経緯もございまして、今回、現行ビジョンの内容について振り返っていただいたということでございます。この内容を踏まえまして、皆様からご意見・ご質問等を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

ちなみに、これは事務局様が振り返られて判断されたということではよろしいでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおりでございます。事務局側で進捗状況や、このようにしていけばよいのではないかとこのものを整理させていただいております。もちろんその中で、これはどうかというところがございましたら、忌憚のないご意見を頂戴できたらと思っております。

(会長)

いかがでしょうか。

(委員)

ご説明ありがとうございました。今回のこのビジョンの振り返りをされて、次年度に向けた戦略については継続の方向でということについては、このテーマは永遠のテーマと言えるものですので、強く賛同いたします。

先ほどご説明いただきましたとおり、例えば進捗状況の中で 0 や 25 といった数字についてのご説明を頂戴したのですが、課題はあるにしても、なぜ実際にできなかったのかというところ、それが優先順位の問題なのか、様々な要因があると思いますが、そのなぜできなかったのかというところが次の検討に活かされることがポイントだと思います。ここに書かれているテーマやアクションは継続してやっていかなければならないとはいえ、決められた時点でここまでやるという目標に対して結果的に 50 や 25 といった数字になっているということは、何かそこに理由があったはずですので、そこをもう少し次回に向けて深掘りいただけたらどうかと思います。感想でございますが、以上です。

(3) 統計データ等の整理結果の報告

(会長)

ありがとうございました。事務局の方で、次回に向けて、なぜ進まなかったのかという原因を少し究明いただけたらと思います。

他にございますか。よろしいでしょうか。それでは次に進みます。報告事項の 3 番目でございます。統計データ等の整理結果の報告について、事務局様よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局から説明させていただきます。

まずページをおめくりいただき、目次をご覧ください。大きく 6 項目に分けておりまして、最初に国・府の観光戦略というところで大枠の動向を掲載しております。その次、2、3 で国内統計およびインバウンド統計、こちらは大枠の話を掲載しているところでございます。4 番目以降ですが、4 番目で富田林市の動向について触れておりまして、5、6 番目で富田林市における日本人および外国人旅行者の動向分析について掲載しているところでございます。

では、実際の中身に入ってまいります。1 ページ目でございますが、こちらは最近公表されました第 5 次観光立国推進基本計画について記載しております。次のページをご覧ください。2 ページ目ですが、日本版持続可能な観光ガイドラインについて記載しております。次のページをご覧ください。こちらは 2025 年の大阪都市魅力創造戦略について記載しております。次のページ、4 ページ目でございますが、こちらは最近公表された関西あったかプロジェクトについて記載しております。お隣のページをご覧ください。こちらは大阪 MICE 誘致戦略について記載しております。また、次のページをご覧ください。こちらは大阪府の観光客受け入れ環境整備の推進に関する調査研究業務の検討結果について記載しております。お隣のページでございますが、こちらは 2024 年度の大阪府観光政策および計画策定に係る調査研究支援業務の報告書から一部

抜粋して記載しております。

次のページ、8 ページ目をご覧ください。ここからは国内統計になります。最初のページで、日本人の国内宿泊旅行および日帰り旅行の延べ人数の推移について、コロナ前と比較した表を掲載しております。次のページでございますが、こちらは国内旅行消費額の推移について、同じくコロナ前から宿泊旅行および日帰り旅行に関して掲載しております。次のページをご覧ください。10 ページ目ですが、大阪府地域別の日本人の延べ宿泊者数の推移というところで、まず大阪府全域・大阪市域・市外の宿泊者数の推移について掲載しております。右側のページでは、左のページにありました大阪市外の延べ宿泊者数の推移について、大阪府さんが分けていらっしゃるエリアに基づいて推移の表を掲載しております。

次のページをご覧ください。こちらからインバウンド統計になります。まず訪日外国人旅行者数や出国日本人数の推移について記載しております。お隣のページでは、訪日外国人旅行者による旅行消費額の推移を記載しております。ページをめくっていただきまして、こちらは国籍、地域別に訪日外国人旅行者消費額とその構成比について記載をしております。お隣のページが、その一人当たりの旅行支出と旅行消費額についての表を記載しております。ページを移っていただきまして、国籍、地域別の滞在日数、来訪回数の割合について記載をしております。続いて、国籍、地域別の来阪外国人旅行者数について記載をしております。また、ページ移っていただきまして、18、19 ページ目が先ほどと同様ですが、大阪府地域別の外国人の延べ宿泊者数の推移について、大阪府全域、大阪市域、大阪市外の表を掲載しました。右のページで先ほどと同様に8つのエリアに分けて、大阪市外の外国人延べ宿泊者数の推移について記載しております。次のページに移っていただきまして、訪日外国人旅行者の旅行動機ですとか、さらにお隣のページ、日本滞在中の行動の嗜好について記載しております。

次のページにお進みいただき、22 ページ目から富田林市の動向というところで、最初の5 ページほどは上位関連計画の整理をいたしております。総合ビジョンや総合計画、さらには3年ごとに作成されております実施計画についての記載をしております。特に実施計画につきましては、最新の、今年度策定された第9次の計画についての記載をしております。少し飛びまして27 ページ、人口動態に移ります。皆様のご認識のとおりかと思いますが、2020年度の総人口は10万8,699人となっております。年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向にある状況です。また、推計では2050年には総人口が6万7,795人と、38%ほどの減少が見込まれているというような状況となっております。次のページをご覧ください、こちらは富田林市の2022年度の地域経済循環率について記載しております。69.7%という数字がございますが、いわゆる典型的なベッドタウン型であると言えるかと思います。お隣のページでは、市内施設への観光入込客数の推移についてでございます。最新の2025年のデータでは114万4,048人となっております。コロナ前の2019年と比較しても20%ほどの増加となっております。一方で、外国人の割合についてはコロナ前と変わらず、約0.1%から約0.3%ほどの低水準で推移している状況となっております。次のページで、30 ページ目、31 ページ目に関しましては、きらめきファクトリー、サバーファーム、じないまち交流館におけるそれぞれの来訪者の推移について記載しているところでございます。

また、32 ページ目からは富田林市の日本人旅行者の動向分析について記載しております。まず来訪者分析でございますが、2024年のデータでは2023年と比較したときにどちらも微増ではありますが、増加しています。下段の富田林における訪問者数と訪問日数に関しましては、2023年と比べて微減というところで記載しております。33 ページをご覧ください。こちらは富田林市の観光消費額のカテゴリー別推移と都道府県別の推移について記載しております。カテ

ゴリー別ですと、飲食分野が約4割ほどを占めております。また、居住地別観光消費額についても大阪府からの消費額が突出しているような状況となっております。下段では性別・年齢別の訪問者数ですが、男性の割合が63%、女性の割合が37%ほどというような状況で、年齢別に見ても20代から50代がボリュームゾーンを占めているような状況となっております。次のページをご覧ください。今度は富田林市の性別・年齢別の宿泊者数の記載でございますが、宿泊者数になりますと男女比はほぼ均衡している状況でございます。また年齢別に見ますと20歳代が最も多く、年齢を経るごとにだんだんと少なくなっているような状況となっております。お隣のページでは宿泊者分析でございますが、東京圏からの宿泊者数が多く、続いて福岡や愛知の方々から来ていらっしゃるような状況となっております。次のページをご覧ください。宿泊日数別の宿泊者数の推移でございますが、基本的に1泊、2泊、3泊の方々がほとんどを占めておまして、ここ2年間はほとんどの宿泊者が1泊のみというような状況になっております。お隣のページをご覧ください。こちらはじないまち交流館における動向調査の結果を記載しておまして、じないまち交流館の訪問者の年齢別割合を見ますと、50代以上が全体の4分の3ほどを占めておまして、府内の他の訪問地と比べても年齢層が高くなっていることが伺えるかと思えます。また、じないまち交流館の訪問者居住地別の割合ですと、大阪府から来ている方が9割以上を占めておりますし、旅行形態としても日帰りがほぼ100%というような状況となっております。また、38ページ目をご覧くださいますと、じないまち交流館に行かれた方のほとんど、8割ほどが訪問が交流館のみで終わっているような状況となっているのがご覧いただけるかと思えます。

39ページ目にお進みいただき、今度は富田林市における外国人旅行者の動向分析について掲載しております。まず来訪者分析ですが、こちらも2024年のデータでございます。2023年と比べたときに消費額に関しては微増といったところが見て取れますが、滞在日数に関してはかなり減少となっております。下段の訪問者数というところで、2023年から比べて6割近く増えているというところが理由として挙げられるかと思えます。また、訪問日数に関しましても12%ほど増えているというような状況になっております。次のページ、40ページ目をご覧ください。富田林市の観光消費額のカテゴリー別推移と国別の推移でございます。カテゴリー別ですが、買物分野の占める割合が非常に大きくなっております。一方で、宿泊の割合は非常に小さいような状況となっております。また、国別の観光消費額につきましても、主に近隣のアジア諸国からの旅行者の消費額が多いというような傾向にあることが伺えます。最後になりますが、大阪府内の訪問施設に関する動向調査の結果を記載しております。富田林市のじないまち交流館と回答している外国人旅行者につきましても、欧米から来たと回答してくださっている方が全体の2.2%ほどいらっしゃるのに対して、近隣のアジア諸国や北米から来てくださっている方々はほとんどおらず、0から0.2%ほどにとどまっているような状況となっているということを記載しております。以上で終わらせていただきます。

(会長)

ありがとうございました。ただいま統計データ等についてご説明いただきましたが、何かご質問等ございますでしょうか。

(委員)

先ほどの策定当初の部分にもあったのですが、大きな重点項目の一つとして、上の2つは観光振興としてそういう見方があるのかなというところなのですけれども、3つ目の外国人旅客誘致というのは、どこまで成果が出せるのかというところがまだ不明確といいますか、見えない

ところがありまして、それがこの結果に対してどう見るか、今まで何年間かやってきていただいた上で、この結果を今どう見ておられるのかということと、これからどういうことをしていかなければいけないのかということを考えていく必要があるのかなというのが一つでございます。

また、外国人に限らず、こうしたデータ全般について、先ほど別の委員がおっしゃったことと重なるかもしれませんが、ミクロの施策をいくつか打ってきた結果がこのように出てきたということを、どのように評価されているのかということをお聞きできたらと思います。私自身も営業や宣伝の仕事をしてまいりましたが、この施策がこうつながって、だから何が増えましたということはなかなか掴みにくいところがございまして、ミクロな施策をたくさん打って、結果的にマクロの結果として出てきて、それが成果であると思うのですが、そうは言うものの、そのマクロの結果として出てきたデータを振り返ってみて、この施策が良かったということを見ていくべきかなと思いますので、今の質問をさせていただいております。

それから3つ目ですが、このデータだけでどこまで言えるかわかりませんが、33ページで、訪問者数に占める割合が男性63%、女性37%というところで、観光施設・観光地の特性もあるのかなと思うのですが、これは仮説ですけれども、例えばもう少し女性に対して魅力がある観光地があるならば、そこを重点的に売ることによって、もっと人が増えるのではないかという仮説を持っております。なぜかと申しますと、旅行先を決める決定権は女性にあるというのが通説でありまして、男性が来ているということは、もし女性が振り向いてくれるならば、女性が来ることで友達を連れてくる、あるいは旦那様を連れてくるといった、パイを増やす施策につながるのではないかというところで、今申し上げております。以上でございます。

(会長)

ありがとうございます。1つ目のご質問についていかがでしょうか。

(事務局)

この結果を見てどう評価するかというところで、外国人の部分ですけれども、おっしゃるとおり、市としてもいろいろな細かい施策、アプリの多言語化やガイドの多言語化など、様々な施策を打ってはいるものの、それが実際にこの人数にどれだけ影響したかというところは、なかなか掴みきれていない部分もあるかと思います。もちろん外的な要因も当然多くあると思われます。今回お示ししている部分にも表れておりますが、今後どのようなPRをしていくべきか、観光地の国際化や多言語化といったところも含めて準備を進めていくという考え方になるかと思えます。

また、女性へのPRという部分でございますが、おっしゃるとおり、私どもとしても女性は旅行の決定権を持つキーパーソンであると考えて、施策を検討する際には女性向け、女性をターゲットにした施策を打っているつもりでございますが、結果としてこのような形で男性が多いという結果が出てきたことに関しては、もう少し不足しているのではないかという感覚を当然持たなければなりませんし、今後もそういった形で女性へのPRを強化していくという考え方になるかと思えます。もう一つのご質問は何でしたでしょうか。

(委員)

もう一つは全体の話です。全体の施策がこの結果にどう表れているとお考えで、それを踏まえて施策の継続あるいは削除を考えていくのが適切ではないかというところですので、ご意見として捉えていただいても結構です。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。個別具体的な施策自体がどう影響してくるかというのも検証しながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(委員)

追加で質問がございます。外国人を呼ぶというのは、これを見た結果ではかなり費用対効果、コストパフォーマンスは低くなりますので、かなり力を入れて取り組まないといけないというのが感想でございます。ターゲット国を絞る際に、ターゲット国ではないかと思われるエリアや地域、国などはございますか。

(事務局)

お答えいたします。費用対効果という部分で言いますと、今の考えとしては、大阪市内にはかなりの外国人が来られているという認識でございまして、特に今は中国人が減っておりますが、韓国人の方や台湾の方が多くいらっしゃいます。いきなり韓国から富田林へということは難しく、そこを直接呼び込むのはかなり費用的に大変だと思いますので、できれば大阪市内に來ている外国人に対してアプローチするというのが、費用対効果的にも有効なのではないかと考えております。多くは韓国や台湾から来られているところですので、そのあたりを対象に検討していきたいと考えます。

(委員)

承知しました。パイという観点からするとそのとおりかなという考え方も一つあると思います。もう一つは、富田林そのものの魅力がその国の方々に刺さるのかどうかという観点も必要かなと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございました。最後のご意見・ご質問について、少し先にお話しさせていただきたいのですが、おそらく事務局様も外国人観光客に対して、日頃から様々なことを検討されたりお考えになっていらっしゃると思いますが、その辺りについて、委員の皆様から有用なご意見を頂戴したいというところでございますので、こちらから助言というかアドバイスというような形で受け止めていただければと思います。

外国人の件についてですが、私自身、阪南大学に勤めておりまして、南河内地域として、今大阪市内に來ている外国人観光客をこちらへお連れしようということで、南河内の市町村の方々と色々お話をさせていただいているところなのですが、リピーターで来られる外国人の方などは、割と3泊、4泊で宿だけ押さえて、今日は何をしようかというような入り方をされている印象がございます。その辺りを引っかけて富田林に來ていただくという観光施策について、委員の皆様にお伺いしたいのですけれども、行き当たりばったりのところはあるとは思いますが、一定数は見込めるのではないかと感じております。

(委員)

はい。これも私どもとして勉強中のところがございますが、例えば欧米豪の方などは、ほぼ8割方、東京にいらっしゃって関西に来られ、1週間から10日ほど滞在して日帰りで回るといったケースをよく聞きます。ですので、そういったことはありうるかと私どもも考えておりますし、そういった長い旅行の中での一つのトリップとして、このエリアを選んでいただきたいと考えております。私どもが手がけている近畿全体、伊勢志摩に来ていただくといった施策も展開しております。ですので、やはりそういうことはありうると思います。

先ほどのお問いかけに関して私なりに思いますのは、富田林はどちらかといえば欧米向きなのではないかということです。方向性として、アジア系よりは欧米、今で言うアメリカなどはかなり本気で取り組んでいらっしゃるの、かなり反応があるように感じておりますが、これは何かデータに基づいたものではなく、経験則によるものでございます。

(会長)

経験則は心強いです。他にありますか。

(委員)

ご説明ありがとうございました。私が逆に興味深く思いましたのが、34ページに書いてある国内の日本人旅行者の動向分析で、富田林に宿泊された方は20代が一番多く、次いで30代ということになっているという点です。35ページを見ますと、東京からの方が比較的多いという分析になっているわけですが、一方で37ページに書いてある施設ごとの訪問者年齢別割合で見ますと、先ほどご説明があったじないまち交流館は圧倒的に50代が多いというお話でした。ということは、この20代の方々は、東京も含めて多いとして、どこに行かれているのかということと、どこをどのように分析されていらっしゃいますでしょうか。

(事務局)

そういったデータが取れているかどうかについては把握できておりませんが、おっしゃるように傾向として乖離があるという認識でございます。

(委員)

これまでも一般的に「寺内町がどうか」という話がいろいろ議論されてきたわけですが、寺内町ももちろん人気があるとは思いますが、もちろん、このじないまち交流館に立ち寄っていないだけかもしれませんので、何とも言えない部分はあるのですが、どういうところにこの20代、30代の方々が引っかかる、フックを感じてこちらにいらっしゃっているのかという点は、非常に分析する価値があるのではないかと思います次第です。

むしろできれば、この方々が他にどこに行かれているのかということを見てみたいところです。おっしゃったように大阪市に行って、ここにも来ていらっしゃると。つまり、富田林で1泊取っているからこの宿泊数が出ているのであって、他でも宿泊しながら来ているのかというところ、この辺りが非常にこのデータだけでは分析がわからない部分があるのですが、非常に興味深いデータだと思いました。次の調査などの際に、もう少し工夫していただけるとよいのではないかと思います。

(4) 各種調査計画の報告

(会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。なければ、いろいろなご意見をお伺いしま

したので、事務局の方でまた検討して出ささせていただければと思います。それでは続けてまいります。報告事項の4つ目でございます。各種調査計画の報告についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

各種調査計画のご報告、ご案内になります。まず資料4のページをご覧くださいと思います。こちらは今後行う調査になります。先ほどご質問のあった件も含めて、連動した内容につながってくると思います。

まず資料4でございますが、市内の観光資源の調査として、GPS人流調査というものを実施したいというふうに考えております。調査目的といたしましては、富田林市内の主要観光スポットへの来訪者の属性、例えば性別、年代、居住地、時期、入り込み状況などの把握、また市内・市外を含めたエリアの回遊状況も含めた把握をしたいというふうに考えております。具体的には、GPSや観光ビッグデータを扱うサービスがいろいろございますが、今回はKDDIさんが提供されているロケーションアナライザーと呼ばれるサービスを活用して、このデータの取得や集計を行いたいというふうに思っております。KDDIが持っているGPSデータを、契約者情報を活用して情報の取得や追跡を行っていくことになります。注意点としましては、捕捉データのサンプル数が1,000件程度ということで、人口と比べて少なくなっておりますので、この入り込み客数は拡大推定することになります。したがって、このエリアに何人来ているかという数字は一応出るのですが、拡大推定しておりますので誤差がどうしても生じます。私どもが使う際には、その数字自体はあまり過信せず、何割かの誤差があるという認識をしております。ただ、数カ所間の比較、例えばここことこでは2倍の差があるといった相对比较についてはかなり信頼できますし、先ほども申し上げたとおり、回遊に関する数値も出てまいりますので、そういったところを参考にできればというふうに思っております。調査項目は4つございます。1つ目が調査対象地点への来訪者の属性、性別や年代。2つ目に来訪者の居住地、どこから来たか。3つ目に来訪者数の推移、例えば1年間で1月が多い、2月が多いといった話です。最後に、主要観光スポット間の回遊状況、すなわちその場所を訪れた人が他にどこに行っているのかというところがわかるようになっております。これを、例えば2025年4月から2026年3月まで、最新の1年間という形で把握してはどうかというふうに思っております。調査対象につきましては、一番下に書いておりますとおり、対象地点として、事務局とも相談しながら主要スポットの中で5から10カ所程度を選び、先ほど挙げたような項目を分析してはどうかというふうに思っております。時間帯は5時から29時まで、1日で滞在時間15分以上滞在した市外から来ている来訪者、といったところをデータ上で定義して把握してはどうかというところでございます。資料4については以上でございます。

あわせて資料5についてもご説明させていただきます。資料5は地域担当者ヒアリング調査計画と申しまして、市内の観光事業者や団体に対して、観光の現状や課題、今後の取り組み、意向や支援への期待等を伺い、次期観光ビジョンに反映していきたいというふうに考えております。調査方法は基本的には対面を想定しておりますが、場合によってはオンラインを含めてヒアリングをさせていただきます。調査項目につきましては、組織や取り組みの概要、近年の観光事業における景況感や今後の見通し、今後誘客したい国内外の観光客やターゲット、行政に期待する取り組み、例えばコンテンツの造成、プロモーション、人材育成、観光インフラ整備等、その他ご意見等も含めて把握したいというふうに考えております。一方で調査対象につきましては、おそらく先ほどの資料4に出てきているエリアのスポット関係者と重なってくると考えておりますので、先に資料4の調査を実施した上で、特にそのエリアで頑張っていらっ

しゃる、取り組んでいらっしゃる方々にヒアリングをしていくという流れを想定しているところでございます。資料 4・5 についての説明は以上でございます。

（会長）

ありがとうございます。ただいま事務局様から二種類の調査計画についてご説明がございました。これに関しまして、皆様から何かご意見・ご質問ございますでしょうか。

ヒアリング調査の実施時期について、もう一度お伺いしてもよろしいですか。いつ実施されるのでしょうか。

（事務局）

具体的な日程はまだ入っておりませんが、第 2 回の会議を 9 月頃に予定しておりますので、それまでの間にはすべて終了させたいというふうに思っております。

（会長）

第 2 回で結果が出てくるという感じでしょうか。

（事務局）

そういうことでございます。

3. 検討事項

（会長）

わかりました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

以上で、報告事項が終了いたしました。続いて、検討事項についてご説明してまいります。まず検討事項 1、骨子案の検討にあたりまして、大阪観光局様より話題提供をいただけるというふうに伺っております。よろしくお願いいたします。

（事務局）

はい、ありがとうございます。ここからは大阪観光局より、少しお時間をいただきまして、広域周遊の現状と富田林市・南河内地域への期待というところにつきまして、簡単に話題提供をさせていただきます。お手元の資料をもとにお話しさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず 1 枚目のスライドで、大阪全体の状況について共有をさせていただきます。大阪・関西万博を経まして、大阪への観光需要は大きく伸びておりますが、宿泊という点においては依然として大阪市域への集中が続いているという状況でございます。具体的には、大阪府内における日本人の延べ宿泊者数のうち、約 8 割が大阪市域に集中している状況でございます。一方で、2025 年の日本人延べ宿泊者数は、全国・東京が前年を下回る中で、大阪は前年比 104.2% と唯一プラスの成長を見せております。こうした状況の中で、大阪府からは、定番観光を終えた後の楽しみ方が見えにくい、市外のイメージが薄い、治安や混雑への不安という 3 つの課題が指摘をされている状況でございます。これらはまさに、富田林市を含む広域全体で受け止めるべき課題ではないかというふうに考えております。

次のページをお願いいたします。こちらはインバウンドの状況についてご説明いたします。2014 年から 2025 年までの 11 年間で、来阪外国人旅行者数は 376 万人から 1,764 万人へ、約

4.7 倍に拡大いたしました。同じ期間において、観光消費額も 2,661 億円から 1 兆 7,282 億円へと、約 6.5 倍に拡大しております。2025 年の消費単価は 1 人当たり約 9 万 8,000 円となっております。2030 年には 16 万円を超える水準を見込んでいるという状況でございます。大阪観光局といたしましては、2030 年に来阪外国人旅行者数 2,300 万人、観光消費額 4 兆円という目標を掲げております。これは国の目標である訪日外国人 6,000 万人、消費額 15 兆円の一翼を担うものと位置づけております。今後、この成長を大阪市内だけにとどめず、富田林市をはじめとする広域全体へどう波及させていくかが重要なテーマになってまいります。

次のページをお願いいたします。こうした課題に対応するため、大阪観光局では宿泊税を活用したデータマーケティング推進事業と、デジタルプロモーション推進事業の二つを、昨年度に引き続き令和 8 年度の重点事業として進めております。データマーケティング推進事業は府内 34 の市町村、デジタルプロモーション推進事業は 22 の市町村が参画をいただいております。広域周遊に大きな予算を投じている事業でございます。まず申し添えたいのは、この事業の最終的な目的でございます。データを集めること自体が目的ではございません。この事業を通じて構築いたしました広域周遊を目的としたウェブサイト「ディスカバー大阪」というサイトがございます。そのサイトを通じて、実際に旅行者の皆様へ広域へ足を運んでいただき、体験ツアー等に参加いただくことによって広域全体の消費額を高めていく、データはそのための手段でございます。データマーケティング推進事業においては、モバイル空間統計や決済データを組み合わせた大阪観光データハブ、いわゆる DMP（データマネジメントプラットフォーム）というものを構築しております。市町村ごとの来訪・消費の傾向を可視化しております。このように可視化したデータを、市町村のコンテンツの磨き上げや誘客施策の優先順位付けに活用いただけるものでございます。そこで、観光局としても課題を感じている点が一つございます。OTA と呼ばれる海外の旅行予約サイト経由での予約の場合、購買データが大阪観光局の手元に残らないため、先ほどお話しした DMP に反映できる情報が限られてしまうという点でございます。

次のページをお願いいたします。そこで重要になるのが、「ディスカバー大阪」における直販比率の引き上げでございます。現状、商品の販売は海外 OTA が中心となっております。2025 年度時点では直販比率はほぼゼロという状況です。これを 2031 年には 30～80%まで引き上げるということを目標としております。先ほどもお伝えしたとおり、OTA 経由の予約では誰が購入されたかという情報が観光局側に残らず、次の周遊提案やコンテンツの磨き上げに活かすことができません。一方、直販であれば購買行動データを大阪観光局自身が蓄積し、先ほどの DMP と連携させることによって、リピーターや大阪ファンの分析、そして広域周遊コンテンツの精緻化につなげることができます。繰り返しになりますが、ここで申し上げたいのは、データを集めることがゴールではないという点でございます。データを蓄積して分析の精度を上げることは、最終的に旅行者の皆様実際に富田林市・南河内地域へお越しいただき、体験・周遊いただくための手段でございます。こうして初めて、広域全体の消費額拡大という本来の目的につながるものと考えております。直販比率の引き上げは単なる販売チャネルの話ではなく、この一連の取り組み全体を左右するデータ戦略そのものでございます。

次のページをお願いいたします。こうした考え方に基づく具体的な取り組みを二つご紹介いたします。一つは府内市町村コンサル事業でございます。知られざる大阪の魅力を活用した体験プログラムの造成を市町村の皆様と一緒に進めております。もう一つは堺市内のエリアゾーニングでございます。堺市内を世界遺産エリア、観光エリア、堺ベイエリア、堺東エリアの四つのエリアに分けて、焼き物体験や酒造り体験など、エリアごとの個性を活かした体験コンテンツを造成し、周遊を促しております。いずれの事例も、単独の集客力に頼るのではなく、広

域の中でどのような役割を担うかという設計によって周遊を生み出している点が共通しております。この発想は、富田林市・南河内地域にもそのまま応用できるものではないかというふうに考えております。

最後のページをお願いいたします。最後に、富田林市・南河内地域への期待につきまして、四つの観点からお話しさせていただきます。一点目は受け皿化でございます。大阪府が課題として挙げております、定番観光後の行き先が見えにくい、市外への安心感が薄いという点について、富田林市は寺内町の町並みや、サバーファームなど、すでに応えられるコンテンツをお持ちだと思っております。大阪市内にお越しの旅行者を、もう一日、南河内へお送りする、その受け皿としての役割が期待できると考えております。二つ目は二次交通でございます。バス路線の縮小等によりまして、二次交通の弱体化は広域周遊において最大のボトルネックとなっておりまして、送り込めても周遊できないという課題にどう対応していくのか、今後の論点になるのではないかとこのように考えております。三点目は KPI の設計でございます。単年で途切れることなく、継続的に取得可能な指標を軸に進めることが望ましいと考えております。府や国のデータを基盤としつつ、大阪観光局が保有するデータにつきましても、継続して取得できるかどうかというところをご確認いただいた上で、補完的に活用いただく形が現実的かと存じております。最後、四点目はインバウンドの観点でございます。先ほどからもございましたように、外国人観光客の消費単価は日本人の約 2 倍となっております。寺内町や農業、ものづくりといった付加価値の高いコンテンツは、こうした層と相性がよいところでございますので、そういったところも推し進めていければと考えております。

大阪観光局といたしましては、富田林市・南河内地域を、大阪都心に集まる宿泊需要を地域へ広げていく受け皿と位置づけております。受け皿化、二次交通、KPI 設計、インバウンドの四つの観点につきまして、実際に取り組みを進められる富田林市・周辺自治体の皆様を、こうしたデータの提供や事例の提供等を通じて支援してまいりたいと考えております。

以上、長くなりましたが、広域周遊の現状と富田林市・南河内地域への期待について、簡単にお話しさせていただきました。大阪観光局といたしましても、重ねて申し上げますが、データやこれまでの事例を活かしながら、富田林市の取り組みを積極的に支援してまいりたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございました。ただいまの話題提供につきまして、ご質問等はございますでしょうか。

(委員)

私から一つ伺いたいのですが、よろしいでしょうか。南河内の市町村の中で、外国人観光客の誘致に割と前向きな市町村はどちらになりますでしょうか。

(事務局)

はい、ありがとうございます。ピンポイントで申し上げますと羽曳野市様でございます、羽曳野観光局様が主体となって取り組みをされていらっしゃいます。近鉄様とも連携をしながら、貸切列車の企画なども行っているように思います。羽曳野をフックに、羽曳野からさらに南河内エリア全体への拡大というところを積極的に取り組まれていらっしゃるということで、先日、羽曳野観光局様と打ち合わせをさせていただき、南河内エリア全体で盛り上げていこうというお話をさせていただきました。

（１）骨子案の検討

（会長）

ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは、なければ続けてまいりたいと思います。事務局様より骨子案についてのご説明をよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、右上に資料 6 と書いております「富田林市観光ビジョン骨子案」という資料を本日お持ちしておりますので、こちらをご説明させていただければというふうに思っております。

これから改定という形で作成することになります観光ビジョンにつきまして、全体的な構成のイメージがこのようになるのではないかとこのところを、事務局案としてご提案させていただいているものになります。まだあくまで素案でございますので、皆様にご覧いただければというふうに思っております。

それでは、1 ページ目から説明させていただきます。1 ページ目は第 1 幕、富田林の観光振興についての考え方となっております。こちらは現行の観光ビジョンの内容を基本的に踏襲しておりまして、改定にあたり、この第 1 幕に書いてある内容につきましては、細かい計画期間や社会情勢等で修正が必要な箇所は当然対応してまいりますが、それ以外の内容については現行ビジョンの内容をそのまま採用する形でよいのではないかとこのように考えております。

具体的には、1 つ目の「本ビジョン策定にあたって」の背景・目的の部分や、位置づけ、計画期間、活用方法等につきまして、計画期間は令和 9 年度からの 5 年間という形にしておりますが、そういったところにつきましては、最初の序文には修正を加えますが、基本的な内容は変えません。2 つ目の「本ビジョンのコンセプト」、「来るたび発見、富田林 住んでも発見、富田林」も変えません。3 つ目の（2）基本目標につきましても、全部で 3 つ、現行ビジョンに掲げております「富田林の地域力を向上させる」「富田林のファンを増やす」「富田林の可能性を引き出す」、こちらにつきましてもこのまま維持してはどうかというふうに思っております。本市が目指す観光振興についての基本方針につきましても、基本的には同じでございますが、2 つ目の基本方針 2 だけ変更してはどうかということで、例えば「市内観光拠点として観光交流施設きらめきファクトリーの機能拡充を目指します」といった形にしてはどうかということでお示ししております。

では、ページをめくっていただきまして、裏面、第 2 幕でございます。こちらは富田林市の観光の今ということで、いわゆる現状と課題を記載するところになります。こちらにつきましては、先ほどご説明いたしました現行ビジョンの施策評価や調査等も実施することになりますので、全面的に作り直しまして、調査した結果をきちんと反映してはどうかというふうに思っております。一番右側のところ、前ビジョンの施策・事業評価については、先ほどご説明したとおりの内容を記載しております。続きまして、（2）社会潮流の動向でございますが、こちらについては国の動きや大阪府の動き、それから富田林の上位関連計画を整理したものを入れたというふうに考えております。国の動きで申しますと、2025 年度末に第 5 次観光立国推進基本計画が閣議決定されておりますが、この中で観光産業を戦略産業として進めていくということが書かれております。特に、昨今の国の議論の中では、日本版持続可能な観光ガイドライン等も含めまして、持続可能な観光といったところをかなり意識した内容が書かれておりまして、「住んでよし、訪れてよし」、この両方を実現する観光地としていくということで、中長期的な観光地マネジメントが求められるということでございます。②大阪府の動きにつきましては、現在は「大阪都市魅力創造戦略 2025」で、2030 年度版が策定中であります。この戦略の

中でも、魅力創造都市大阪を目指して、食文化や歴史なども含めた街づくりとツーリズムなどを展開していくという発想がございます。今後で申しますと、万博を見据えた形で、繰り返しくなりませんが観光の大阪市への一極集中ではなく、周辺も含めた広域周遊などに展開していく話が、大阪府としてもかなり意識をされておりまして、万博関連のプロジェクトでも、それを含めて目指しているというところがございます。こうした中で、定番観光を満喫した後の楽しみ方がわからない、大阪市外へのイメージが希薄である、市内の観光名所の認知度が低いといった点が指摘されているところかなというふうに思っております。続きまして、(3)統計データ等の整理につきましても、先ほど資料でご説明があったところがございます。改めて振り返りますと、国の現状としまして、日本人の国内宿泊旅行や日帰り旅行につきましては、コロナ前からほぼ9割程度まで回復傾向にあるというところと、インバウンドについては2025年で訪日外国人数が4,268万人ということで、コロナ前から34%増と過去最高を更新し続けているというところがございます。先ほどターゲットの話もありましたが、国籍別で見た消費額を見ますと、中国、台湾、アメリカ、韓国、香港の上位5カ国で全体の66%というふうになっております。一方で、富田林の現状につきまして、2025年の年間施設利用者数、合計しますと100万人を超える数字となっておりますが、この100万人の数字の中には、錦織公園の約90万人という数字が入っておりますので、ここをどう見るかということでございます。これを除きますと十数万人という形になりますが、外国人比率は0.2%から0.3%と極めて低い水準になっているという状況でございます。施設別に見ますと、きらめきファクトリーやじないまち交流館は3月に来訪者のピークがあり、サバーファームは秋にピークがあるという形で、季節偏在があるかなというところがございます。その他、施設別の訪問者数や観光バスの利用状況なども含めて記載しております。外国人の訪問者数は2020年で7,841人となっております、ここをどうしていくかというところと、広域の現状につきまして、大阪府に來ている日本人の国内宿泊者数は3,214万人ということですが、大阪市域がその80%を占めておりますので、そこに一極集中しているというところがございます。一番右側、4番目の市内観光資源の現状につきましては、先ほど資料4、5でご説明したとおりでございますが、これから調査を実施し、第二回の委員会までにはまとまったものをお示しできればというふうに考えております。

では、続きまして3ページ目をご覧くださいければと思います。現行ビジョンでは、調査結果を踏まえ、強み・弱み・機会・脅威の四点を掛け合わせたSWOT分析によって現状の整理と課題の取りまとめを行っておりますが、今回の改定にあたりまして、これを改めて調査結果を踏まえて強み・弱み・機会・脅威で整理し、これらを掛け合わせた分析を行っていきたいというふうに考えております。現時点で当てはまりそうなものを一旦挙げさせていただいております、これをどう掛け合わせて分析していくかというところになるかと思います。現行ビジョンの中の重点的な取り組みにつきましては、この掛け合わせの中の強みと機会を掛け合わせた、いわゆる積極化戦略と呼ばれる部分、この薄い青色のところに入っている、歴史や自然資源といったものが、富田林の強みと機会を掛け合わせたところでやっていけるものではないかというところで挙がってきております。これを重点的な取り組みとして入れていくということでございます。

簡単に振り返りますと、強みとしては、府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区である寺内町があること、サバーファーム等の多様な農産物や自然資源があること、各種大学と連携協定があること、錦織公園について集客力があるという見方があること、ものづくり基盤があること、住民主体のイベントが行われていること、大阪市内からの良好なアクセスがあること、既に確固とした観光拠点が確立されていること、自然、風景や古民家など日本の原風景が内在していること、各種メディアのロケーションニーズがあること、などが挙げられるかと思いま

す。

弱みにつきましては、観光面での受け入れ体制が不足していること、観光専門人材の不足、観光資源の点在による集客の困難さ、二次交通の脆弱さ、観光へのアクセスの悪さ、住環境と観光振興のバランス、滞在時間の短さや宿泊施設・レジャーコンテンツ・食メニューの不足、観光消費単価が全体的に低いこと、来訪者の高齢化、近隣との連携が高齢化していること、インバウンドの認知度や受け入れ体制がまだ十分な水準にないこと、交流促進やデータ活用の仕組みがまだ整備されていないことなどが弱みとして挙げられるかと思います。

一方、機会につきましては、第5次観光立国推進基本計画の中で地方誘客や観光DXといったところも含めた推進が図られていること、大阪都市魅力創造戦略や関西万博プロジェクトで市外への観光客誘導の需要が見込まれていること、大阪IRの開業が想定されていること、インバウンドの最新水準では欧米からの体験志向が増えていること、個人旅行の増加やニーズの多様化、府立の公園群等周辺の歴史資源に注目が集まっていること、飛鳥・藤原の宮都等も含めた世界遺産の登録が進むこと、SNSや動画による情報拡散力・グループが今後拡大していくこと、こういったことが機会かなということでございます。

最後、脅威につきましては、インバウンドが大阪市内に一極集中し市外に分散されていないこと、今後の人口減少や少子高齢化によって市場が縮小していくこと、SNSの過度な発信によるオーバーツーリズムのリスク、若者の車離れ、市内事業者の高齢化や新規参入者の減少、南河内地域全体の認知度や宿泊率の低水準、近隣施設による観光客の奪い合い、持続可能な街並みの保全に必要な費用負担、特に空き家対策の費用負担、こういったことが脅威になるのかなというふうに思います。この辺りも含めて整理していければというところでございます。

最後、4ページ目でございます。こちらにつきましては、先ほどの3ページ目を含めまして現状・課題を整理した上での話になってまいります。現行のビジョンでは第3幕で重点的に取り組むこと、第4幕で具体的なアクション、第5幕でみんなで観光地域づくりを推進するための体制づくりといったことが記載されているところでございます。

こちらにつきまして、いくつか提案をさせていただいております。まず一つ目でございますが、今回の次期ビジョンの中ではKPIをきちんと設定するという事で、基本方針が全部で5つございますが、この方針にぶら下がる形でKPIを設定してはどうかというふうに考えております。一覧表の右側にKPI案として、想定されるKPIを一旦色々と羅列してございまして、どれを選ぶか、あるいはここにはないものも含めて検討してはどうかというふうに考えております。KPIを設定する際には、当然評価を行う必要がございますので、収集可能なKPIを設定していくことが必要なというふうに考えております。

二つ目、その下の戦略・アクションのところでございます。現行ビジョンでは5つの方向性で戦略・アクションがございましたが、これをそのまま踏襲するのか、置き換える形に変えていくのか。例えば、ここに仮の案ですが、現行ビジョンとは異なる形でコンテンツ造成やプロモーションという形で書いてありますが、ここで戦略の方向性を組み替えていくことも可能かと思っておりますので、こういったことについても検討していただく必要があるかというふうに考えております。また、それぞれどのようなアクションを次期ビジョンの中で行っていくべきかということもございます。

三点目、重点的に取り組むこととございまして、こちらは先ほどのSWOT分析にも出てくる場所だと思いますが、こういった戦略・アクション等を踏まえて、具体的にどこを重点的に取り組みたいのか、その際にこういった施策との関連性、例えば歴史といった現行ビジョンに書かれている項目を重点的に取り組んだ場合、上の戦略・アクションのどこと紐づいてくるのかということも含めて整理してはどうかというところで書いております。この点につきまして

は、まだ現状や課題等が整理されておりませんので、まだ不足しているところが多いところではございますが、本日のご議論と今後の調査結果も踏まえまして、第二回の委員会のときには一通りまとめさせていただいた状態で皆様にご議論いただきたいというふうに考えているところでございます。長くなりましたが、骨子案の説明については以上でございます。

（会長）

はい、ありがとうございます。ただいま検討事項の骨子案についてご説明をいただきました。冒頭にも申し上げましたとおり、これから骨子案について議論を重ねていくにあたって、いろいろな有用なご意見を出していただきたいというところでございます。

資料6で、第1幕については若干の修正箇所があるようですが、現行ビジョンの内容をそのまま採用するということで、この方向性については変更しないということでございました。第2幕については、本日振り返りについてご指摘いただいたり、新たな調査を行うというようなところもあり、全体的に作り直すという方向で見直しをされております。3ページ目がSWOT分析になるわけですが、ここについては皆さんからもご意見をいただいた方がよいかというふうに思っております。強みや弱み、機会や脅威について、皆様が感じておられることを自由に出していただくのも良いかと思えますし、色々なご意見を頂戴したいと思っております。まずはこの1ページ、2ページ、それから3ページ目あたりまで、全体的にご意見・ご発言をいただければと思いますが、特にこのSWOT分析については、皆様からご意見を頂戴しないと骨子案の作成にもつながっていかないかと思えますので、ご意見を頂戴したいと思います。まずは1ページ、2ページ、それから3ページぐらいのところで、委員の皆様、ご意見をいただきたく存じます。よろしくお願いいたします。もちろん全体を通してで結構ですが、まずはその辺りを重視でお願いいたします。いかがでしょうか。

（委員）

ご説明ありがとうございます。全般的なところで申し上げますと、まず全体に関わることとして、基本的にはこれは富田林として、これまでもずっとビジョンが継承されてきたというところについて、その方向性の詰め方に異論はございません。ただ、今、都市間競争という観点で申し上げますと、一つは、これまでは大阪・関西万博があって、それに向けていろいろな施策を数年前から打ってきた、これが終わりました。次の大阪の目玉として、今書かれておりますとおり大阪IRがございします。2030年、このビジョンが2027年、令和9年から13年までとお伺いしておりますので、ちょうどそれに重なってくることだと思うのですが、大阪への目標は約2,000万人と言われております。そのうち海外が30%、600万人、国内からが多く、1,200万人という目標を掲げられているわけです。大阪観光局としての最大の課題は、先ほどのお話にもございましたが、大阪市内に集中しているお客様をいかに府域に出すのか、あるいは大阪IRの中だけでお金を使っただけでも意味がないわけです。大阪IRからいかに外に出ていただいて、お金を落としていただくのかというところの方がむしろ重要だと思っておりますので、まず富田林として何があるのかという、他と比較した観点が必要だと思います。おそらくここで書かれている基本的なことというのは、富田林の中でこうします、ああしますということが書かれていると思うのですが、他と比較してどうなのかという相対的な軸というものが、もう少しあってもよいのではないかというのが、まず全般的に思ったことの一つです。

それから、二枚目、2ページ目のところに社会潮流の動向ということで、第5次観光立国推進基本計画や大阪都市魅力創造戦略などが挙げられておりますが、これがこの観光ビジョンに書かれたとしても、一般の方もご覧になるわけですので、公開されるものですから、わかりにく

いのではないかと思います。したがって、例えばこのビジョンが完成したときに、令和 13 年にはこういう姿になっていますよというようなことを、もう少し明確に、市民の方々にもわかるような内容として書いた方がよいのではないかと思います。つまり、並べれば基本的にはそうなるのだと思いますけれども、これからの万博に向けて市民との共生をしっかりとやっていくということが書かれているわけですので、市民の方々にも理解いただけるような内容になっている必要があるのではないかと思います。

それから三つ目に、こちら重要なポイントだと思いますので申し上げますが、先ほどのページに戻りまして、3 番目の観光振興の五つの基本方針の中の 3 番目に「生活空間型観光」という言葉が出てまいります。私の理解では、例えば寺内町の中で、住んでいらっしゃる方もいらっしゃる中で、どのように住民の方々と協力し合いながら持続的な観光を目指すということを言っているのかなというふうに思うのですが、これも言葉だけを見たときに、我々はなんとなく理解できるのですが、市民の方々から見たときに、「生活空間型観光を目指します」と書いてあったところで、どうなのか、注釈が必要ではないかという気がいたします。申し上げたいのは、もう少し市民の方々に寄り添っていく必要があるということでございます。そういう方向性であれば、もう少しトーンをわかりやすく、観光事業者だけが目指しているわけではなく、市民の方々もこの方向に進むことで、結果的に市民に対してもそれだけの効果や価値があるのだということがわかるようなトーンの方が良いかと思います。

それから 2 ページ目、統計データの整理の中で、富田林の現状の二つ目、秋に集中する傾向があり季節偏在の解消が課題とされている点についてですが、季節の偏在があるのは事実ですけれども、解消することが課題なのではなく、閑散期にどのような魅力づくりをするのかという、プラス思考で考えるべきだと思います。大阪市内や京都のように人が多すぎて困るというオーバーツーリズムの状況ではございませんので、季節偏在の解消や分散という発想よりも、閑散期にどのような魅力をつくっていくのかという観点で捉えていくことが必要ではないかと、ここまでの感想として申し上げます。

全般的なプロセスを否定しているわけではなく、気づいた点をお話しさせていただきました。ありがとうございました。

(会長)

大きく分けますと、市民目線というところをもう少し大切にするというところと、2 ページ目、これは具体的でしたが、閑散期の魅力づくりというところでご意見をいただきました。ありがとうございました。確かに「生活空間型観光」という表現は私自身もわかりにくいと感じておりましたので、今のご意見を頂戴して、反省しているところでございます。

それで、逆にお尋ねしたいのですが、大阪 IR の記述は入れられるものでしょうか。

(委員)

大阪 IR もやることが決定しておりますし、大阪都市魅力創造戦略の中にも「エンターテインメント都市」とであると明確に書かれておりますので、書く必要はあると思います。それを意識して取り組むということ、2,000 万人の方々が来るという装置ができるわけですので、そこから富田林としてもチャンスなのだとすることを、まず理解していただくというか、欠けているところというのは、いつまでにこれをやるというスピード感のようなものが、なかなか見えにくいというところがございます。それでしたら、大阪 IR の 2030 年にこういう目標があるので、これに向かってこういうプロセスを進めていくのだと書いた方がわかりやすいのではないかなと思っただけです。以上です。

(会長)

ありがとうございます。確かに今おっしゃったご指摘はそのとおりだと思います。市民にもわかるように姿を示すというところにも結びついていくことだと思いますが、いつまでに何をするのか、富田林としてこういうことを目標にしているんだというところを掲げるのは、確かにわかりやすいかなというふうに思いました。ありがとうございます。

この件に関しまして事務局から何かございますか。

(事務局)

ありがとうございます。市民目線という部分では、わかりやすい表現や、より明確にしていく必要があるという部分がございます。確かにそのように感じます。今回のご議論を踏まえて、それをどれだけ取り入れられるか検討したいと思います。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。それでは、続いてどなたかご質問ございますか。

(委員)

受け入れ体制の問題や強みの問題などございますが、寺内町に関しましては、生活空間であるという点や、駐車場の問題、店舗等の受け入れキャパシティの問題がございますけれども、その分、個人のお客様を対象に満足度を高めることは可能なエリアではあると思います。一方、錦織公園に関しましては集客力があるというところがございますが、こちらは公園ということもあり、世代としてはファミリー層が多いのではないかと思います。そうすると団体の受け入れが可能な場所であり、サバーファームも同様に団体の受け入れが可能であるという、その辺りの明確な差別化が必要で、そこでもう少し戦略を練っていく必要があるのではないかなというふうに感じました。外国人に関しましては、ターゲットとするエリアについてお話がございましたが、きらめきファクトリーでの肌感覚としまして、欧米の方がいらっしゃる人が多い時期がございました。今は少し落ち着いておりますが、一時期フランスからの方が多くあり、その辺りが国民性と寺内町というところがマッチしているのではないかなという分析も必要なのではないかなと思っております。また、インバウンドの受け入れについて、外国語を話せるガイドがないといった課題もございますが、お越しいただいて市民の方と接していただく、あるいは市内の学生さんが外国人と交流を持ちたいと考えていらっしゃる方々もいらっしゃるお聞きしております。ただ、機会がないため、大阪市内でアルバイトをして、そこで外国人と交流を持っているといったこともお聞きしておりますので、その辺りの仕組みづくりができれば、もう少し若者とインバウンドとのつながりもできるのではないかなというふうに感じております。また、言葉の問題もございますが、通訳案内士の方が、大阪市内でお客様と一緒に富田林までお越しいただき、そのままご案内いただけるという場合が多々ございますので、大阪市内で活躍されている通訳案内士の方々に対して、富田林もご案内いただけますよというようなプロモーションもできるのではないかなと思います。そうすることで、言葉の問題も解消されるのではないかなと、普段のお客様の流れから見て感じております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。現場レベルでも大変有用なご発言をいただいたと思います。これについて何かございますか。

(事務局)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、非常に現場レベルの貴重なご意見だなというふうに思います。やはり地方都市に関して言えば、寺内町だとフランスの方が多いかもしれませんし、逆にサバーファームでいえば中国など、アジアの方が多かったりと、観光地の特性が異なる部分もございますので、それも踏まえながらやっていったらいいかなというふうに思いました。

(会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

事務局様の方で、この **SWOT** の部分は次回にはもう文言が入ってくるような感じでしょうか。

(事務局)

こんなものを入れたらいいのではないかというものはあるのですが、もちろんこちらで全て決めきることではなく、この委員会でもこういったものを入れたらいいのではないかというご意見を頂戴して、私どもが考えているものとあわせて形にできればというふうに思っております。ここで何かご意見を頂戴できればと思っております。

(会長)

ということでございます。何かご意見があればお願いいたします。また次に案が出てくるようですので、なければ、その案を踏まえて第2回のときにご意見をいただいても結構ですが、案を作るにあたって皆様から何かご意見があればということでお伺いしております。

(委員)

そこまで踏み込むのであれば意見として申し上げますと、まず一つは、二次交通の弱体化という課題がどちらにもあるということで、近鉄沿線の大きな課題の一つでございます。これを解消するための施策の一つとして行っているのがシェアサイクルというものです。シェアサイクルとレンタサイクルの違いは、レンタサイクルは借りたところに戻って返却するのに対し、シェアサイクルはいろいろな場所にポートがあり、借りたところから別のポートまで行けばそこで乗り継ぎが可能で、また違うポートで借りるといったことができるため、使い勝手が非常に良いという点です。私どもも実際に自転車の運用をしておりますが、全く違うエリアに行ってしまう自転車があたりもあります。私どもも始めたばかりで、都心では事業として成立するのですが、観光地ではなかなか事業として成立しにくいところがございます。ただ、これは一定数を超えると加速度的に発展していくのではないかと私は思っておりまして、ポートが便利になればなるほど使いやすくなりますので、そのように考えております。こちら二次交通の課題としてこういうものがあるというご紹介です。

もう一つは、日帰りと宿泊という観点で申しますと、確かに宿泊していただくと単価が上がりますのでよいというところはあるのですが、これは大きな観光地でも例えば奈良市内がまさにその悩みを抱えておりまして、最近は宿泊施設も増えてきて宿泊者も増えてつつあるものの、強みの中にある「大阪市内からの良好なアクセス」というのが、一つの強みであり弱みでもあると申しますか、近いからこそ来てもらえるけれども、近いからこそ日帰りで帰ってしまうという、表裏一体のものだなというところがございます。そういう意味で申しますと、宿泊を増

やすための何らかのアクション・施策が必要であり、夜のイベントなど、具体化しなければならない施策が必要かなというところですよ。

あと一点だけ質問です。左下、脅威の欄の「若者の車離れ」というのは、なぜ脅威として挙げられたのでしょうか。私のこれは個人的な意見ですが、近鉄の路線があるのにと思います。いかがでしょうか。

（事務局）

一般的には社会的な問題としまして、車の販売台数も減っておりますし、車で旅行される方が減っておられるというところがございます。出かけること自体が、車離れもそうですし、足がないことで出かけることが減っているというところも正直あるかなと思います。もちろん電車で移動いただいて、そこからプラスで二次交通でご移動いただくということもございますが、そういう意味合いで全体のパイが減る一つの要因かなというふうに考えていただければと思います。

（委員）

そういう表現の仕方であればわかります。ありがとうございます。

（会長）

錦織公園ですが、バスもそうですけれども、シェアサイクルのお話をされて、私も八尾市役所と少し関わりながら取り組んでおりますので、確かに都会は稼働率が良いのですが、南河内のような地方でも成立するものなのではないでしょうか。

（委員）

おそらく現状のパイでいきますと、内部補助というか、都心で儲けたお金をこちらで補填するような形になりますが、先ほど申し上げたとおり、利用が増えてくれば成立する可能性を秘めていると思います。

（会長）

ありがとうございます。他にいかがですか。

（委員）

単純な質問として伺いたいのですが、誰が来てもパッと目に入る **PL** の塔があるじゃないですか。あれは何なのだろうと、外国人の方々も含めてみんな思われると思うのですが、宗教施設だということは承知しておりますけれども、何か文化財的な側面や公開的な側面でうまく活用できないの难道うかと思います。せっかくあれだけのものがあるって、誰が見ても「えっ」と思うような施設だと思うのですが、それがほとんど触れられていないというのはどうなのかなと思ったりもしまして。この辺りはいかがでしょうか。単純な質問として聞いていただければと思います。

（事務局）

ありがとうございます。皆さんそう思われていると思います。過去に **PL** の花火大会も、市の方が大きく **PR** していなかったというのは、宗教の行事であったという経緯がございます。ただ、全国的にはもちろん **PL** の花火大会、**PL** 学園というのがあるのですが、なかなか市として

そこを PR しにくいというのが非常に歯がゆいところではございます。何か PR する方法やアイデアがあればよいのですが、現状としてはなかなか市としてそちらを PR するということには至っていないという状況でございます。

(委員)

我々も、例えば大阪観光局で天神祭などを PR しているように、京都では仏教寺院が当然観光地になっているわけです。もちろん公開されるかどうかという議論はあるでしょうし、市として直接 PR しにくいのであれば、他の団体が PR してみるというやり方もあるかと思います。誰が見てもあの姿を見たら「あれ？」と思うはずなのに、何も出ていないというのが逆に違和感があるのではないかと思います。芸術的な見た目、そういったものが受ける時代でもございますので、活用の方法、もちろん宗教の宣伝をするわけにはいかないでしょうけれども、せっかくランドマークとしてあるものを何かに活かせないのかなと。誰が見ても「あれは何か」と聞かれるはずなのに、そのままになっているのはもったいないのではないかというふうに思ったということでございます。

(会長)

ありがとうございます。そうですね。公的な立場としてはなかなか宗教的な部分で難しいのかもしれませんが。おっしゃるとおり、大阪出身ではない学生を連れてきますと、「先生、あれは何ですか」と必ず聞かれますので、確かにインパクトはあるのです。そのインパクトを何か有効に使えたらいいのになというご意見だと思うのですが、なかなか難しいのかもしれませんが。課題の一つとして認識させていただきました。本質的な部分でどうかというのは私にはわかりませんので、無責任な発言になってしまいますが、東京タワーなどが文化財になっていたりします。あれはテレビ塔ですが、築 50 年を経たものはほとんど有形文化財に指定されたりしますので、そういったこともできるのか、できないのか、というようなことを、今のご意見を頂戴しながら考えました。聞き流していただければと思います。他にいかがですか。

(委員)

質問です。強みのところで錦織公園の話がありました。90 万人とほとんどを占めているとのことですが、こちらはどのエリアの方が多いのでしょうか、市内の方が多いのではないかと思います。これを流入している人たちと捉えていいのかどうかというのが一つと、もう一つの質問は、機会の欄にあります古市古墳群への注目について、実際に注目されているのでしょうか。私はあまり感じていないのですが、どういう根拠で書かれているのかなと思いました。

(事務局)

まず錦織公園については、どこから来ているかというデータは出ておりません。ただ、大阪府内の府営公園ということですので、府民の皆様、市内から来られている方が多いのではないかという推測でございます。ここは出典が明確でなく、申し訳ございません。

(委員)

市外からであることは間違いないのでしょうか。

(事務局)

錦織公園さんが直接数字を把握しているのですが、その市内・市外という属性は取っていない

いそうです。あくまで入場者数というところで、市内・市外の感覚の話になりますが、私も近隣に住んでおりますけれども、市内だけでは90万人のキャパシティは到底無理だと思いますので、近隣の市町村から、子供を連れてこられたり、散策に来られたりといった需要で、近隣の方が多いイメージではございます。

(委員)

先ほどおっしゃっていた調査のところでわかってくるという感じでしょうか。

(事務局)

GPS調査で、ある程度の大枠が見えてくると思います。そこを錦織公園にも含めるのであれば、そういったものを見ていきたいというふうに思います。

(委員)

それは入れるべきだと思います。圧倒的な数です。

(会長)

調査対象として、もちろん圧倒的な数ですので調査すべきかと思います。他にいかがでしょうか。

(委員)

あと、古市古墳群の件ですが、もちろん世界遺産にもなっておりますが、再度注目されているということなのか、どういうことなのでしょう。

(事務局)

おっしゃるとおり、この「注目」というところは、どちらかというと飛鳥・藤原の宮都の方にかかるべきかと思います。世界遺産がこの近くに一つ、二つあるというところで、今後新たに世界遺産になるかもしれないということで注目をされているというところです。世界遺産は日本人だけでなく外国の方にもインパクトがあるものですが、なかなか古市古墳群を直接ご覧いただけないというところがございます。ただ、近鉄沿線でかなり宣伝されており、阿倍野橋にも大きな看板がございまして、そういった近鉄をご利用される方の立ち寄り場所としての富田林市、車でも同様に、和歌山や奈良に行かれる方の中継地としての富田林市というところも、集客の手法としてはあると思いますので、そういった意味で「注目」ということで書かせていただきました。

(会長)

よろしいでしょうか。少し時間が押しておりますので、先に進めさせていただきたいと思います。ただいまいただいたようなご意見を参考にしながら、この3ページ目、本日埋めていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

では、皆様、ページをおめくりいただきまして4ページ目でございますが、こちら盛りだくさんではございますが、時間の都合もございますので進めさせていただきます。KPI、それから戦略・アクション、この辺りは資料2でも口頭でお話ししていただいた内容が参考になってくるかというふうに思います。また、重点的に取り組むことにつきましては、戦略・アクションを踏まえて重きを置くところがあるということになりますが、第3幕、第4幕、第5幕は現

状や課題を整理した上での話になってまいりますので、若干先取りするような形にはなりますが、この辺りについてもご意見を頂戴したいと思います。本日ご発言されていない方も、できれば何でも結構ですので、一言ご発言いただけたらというふうに思います。よろしくお願いいたします。KPI、それから戦略・アクション、重点的に取り組むこと、この辺りを時間の都合上まとめて議論させていただきます。ご意見のほど、よろしくお願いいたします。

(事務局)

補足でよろしいでしょうか。すみません。KPIのところですが、今、案を出させていただいておりますので、他に何かございましたら、そのようなものがあればとおっしゃっていただけたらと思います。戦略・アクションのところですが、今、戦略1から5のところは、これまで概念的な書き方をしていたのですが、もう少し短くこういう形でまとめたらいいいのではないかとこのように書かせていただいております。このまとめ方でいいのか、つまり手段や方法をどこまで書くべきかという点、継続のアクションが多くございますので、こんなアクションを追加したらいいのではないかとということも、ご意見をいただけたらありがたいと思います。この戦略1から5の立て付けについて、このような形でいいかということ、それから最後、重点的に取り組むことについてですが、現行のビジョンでは戦略1から5をまとめて三つの重点項目という形にしておりましたが、例えばこの戦略やアクションの中から一部、重要なものを抜粋するのか、あるいは全てを横断的な重点的な取り組みにまとめるのか、そういった方向性について、もしご意見がございましたらいただけますと幸いです。

(会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。KPIについて他に何か思いつくところがございますたら、どこからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。何か入っていた方が議論しやすかったかもしれませんが、いかがでしょうか。

(委員)

KPIについてですが、ここに書かれている基本方針に則って、一番上に「重点的に取り組むこと」「具体的に起こすアクション」「みんなで観光地づくりを推進するための体制づくり」とございますが、2番目と3番目がまだ空欄になっております。これまでの観光事業者や行政、観光に資する方だけのアクションではなく、市民として何をしたらよいのかということも書かれていた方が、お互いに何かできるのではないかとこのように思いましたので、その質問だけさせていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。市民目線もそうですし、また事業者ヒアリングも今後実施いたしますので、その辺りの要素も加えて検討できたところでございます。

(会長)

ありがとうございます。他にいかがですか。

(会長)

アクションについてですが、継続案件に加えて、こういうものを入れていければよいのではないかとこのものをお示しした形で、9月に改めてご議論いただくような進め方でよろしいでし

ょうか。

(事務局)

その方がよいかと思います。

(会長)

それから、もう一つ、「重点的に取り組むこと」についてでございますが、先ほども申し上げましたとおり、この言葉を捉えると、戦略・アクションの中から重要なものをピックアップするような言葉にも取れますし、現行のビジョンでは戦略 1 から 5 を全て含んだ形で三つの重点項目という形で作成しておりました。この辺り、重点的に取り組むことのまとめ方について、重要なものを抜粋するのか、あるいは全て重要だということで横断的な取り組みにまとめていくのか、この辺り、先ほど委員からわかりやすさというご指摘もございましたが、いかがでしょうか。

私からの意見になってしまいますが、あまり重点項目の数は多くない方がよいのではないかと考えております。私が思いますのは、広域化というものが重点になるのではないかということです。色々な取り組みを行いながら、広域化にいろいろなコンテンツを寄せていくようなイメージでございます。もちろん広域化以外でも構いません。皆様、何か思い浮かぶものがございましたら。今のところ、重点というほどではないかもしれませんが。

ご意見の分量もございますので、今後また事務局案として書いていただければと思います。本日の議論を踏まえて、必ず検討はしてまいります。他に何か施策がございましたら、今ご意見いただけたらと思います。よろしいでしょうか。

それでは、こちらに関しましては、次回、事務局の方で案を記載していただき、それに対してご意見をいただく方が進みやすいかもしれません。時間もございますので、少しこのまま進めさせていただきます。事務局様におかれましては、次回に向けて本日の議論の内容を参考に整理していただき、骨子案などをおまとめいただければというふうに考えております。

それでは、その他についてご連絡をお願いいたします。

4. その他

(事務局)

はい、皆様、本日はたくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。次回の委員会につきましては、9 月を予定しております。第 2 回委員会が 9 月となりますが、現在の委員様の任期がちょうど 7 月 24 日で満 2 年となりますので、改めて各選出団体・企業様の方に、ご選出の依頼をかけさせていただきたく思っております。そちらでご選出いただいた委員の方々と、再度日程を調整させていただければと思っております。

事務局としましては、継続してご議論いただいておりますので、引き続き今ご出席いただいている委員の方々にお越しいただけますと、継続的な議論ができるかと思っております。この点につきましては、本委員会終了後、来週ぐらいには選出依頼をかけさせていただきますので、その後また調整させていただきたく思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

5. 閉会

(会長)

はい、ご連絡ありがとうございます。それでは、次期観光ビジョンの骨子の検討につつまし

て、スピード感を持って進めていただければというふうに思います。

以上をもちまして、第 1 回富田林市観光ビジョン策定委員会を終了とさせていただきます。
皆様、本日はありがとうございました。

以上。